

平成 28 年度 第 3 回 学校協議会

平成 29 年 3 月 1 日（水）、本校校長室において、第 3 回の学校協議会を開催しました。公務の関係で中谷健二委員が欠席、後藤るみな委員が代理出席となりました。学校側からは、校長、教頭、事務長、各分掌長が出席しました。

今回は、今年度最後の協議会として、教育活動の報告や様々な評価結果に対して、委員から助言をいただくことにより、それぞれの成果と課題を明確にし、次年度の教育活動の方向性を決定していくためのものとなりました。

内容

1 協議会 15：30～17：00

① 学校長挨拶

② 議事項

- ・ 分掌等の取り組み計画について
- ・ 授業アンケートの結果について
- ・ 学校教育自己診断の結果について
- ・ S G H について
- ・ 平成 28 年度・29 年度学校経営計画及び学校評価について
- ・ 来年度に向けて取り組みと提言
- ・ その他

2. 委員からの意見等

【分掌等の取り組み計画について】

- 小中高一貫なのだから、全校がタブレットを充実させてはどうか。少人数だからかかる費用も少ないし、タブレット本体の値段も下がっているので充実できるのでは。
- 指導要領の改定で、タブレットの活用が期待されているので今後そういうことが必要になるであろうが、中学では、先生は一人一台タブレットを持って授業で活用しているが、生徒が活用することはできていない。
- 耐寒遠足に P T A として参加させてもらったが、真面目にマナーもよく参加していた。2 年生の男子には歌いながら歩く生徒もおり、一緒に歩いていて非常に気持ち良かった。毎年の実施にしてはどうか。
- 広告などを生徒に任せば作ってくれるというレベルまでできているのではないか。生徒のアイデアをもっと広報に使っていった方が良い。各学年で、情報機器をどれくらい使えるのかという基準を作って、基礎を叩き込んだほうが良い。どれくらいの人数の生徒がどのくらいの情報機器が使えるかという数字を出してほしい。
- 支援教育について、支援学級がないが、手厚く生徒指導をしてもらっている。どのようにバックアップをしているのか聞くと、授業の持ち時間以上の支援をもらっていることがよくわかった。
- 進捗状況と自己評価が重なっている箇所がある。自己評価ではなく、次年度に向けた項目に変えた方が良いのではないか。

【授業アンケート・学校教育自己診断について】

- 家庭での勉強は、3年生が一番高くなっている。ただし、進学するためには1、2年生からその意識が必要である。先生方は忙しいかもしれないが、「予習をしないと授業を受けることができない」くらいの指導を習慣づけてはどうかと思う。
- 家庭での学習は能勢町全体の課題である。塾もないという側面もあるが、家庭学習を意識づけるために、中学校では、毎週プリントを作成し課題を強制的に解かせている。中学校は授業を第一にしているので、授業改善や魅力化を意識している。
- 家庭の学習をしていない生徒でも、先生の授業はよくわかると評価している側面がある。これは高校でも同じ傾向が見える。先生と生徒の関係は良いものなので、小・中・高全体で学習をバックアップできればと思う。
- 全国的に小学校の生徒で予習・復習をするというわけではない。能勢町の子どもへの宿題は多いと聞いているので、一概に勉強していないとは言えないのでは。
- HPについては親や高校生が見る割合が少ないのは、ある程度仕方ない。
- 一つ気になるのは、授業アンケートの結果が生かされていないということ。学校として真摯に受け止めないといけない。
- HPを見ないという割合が多いが、PCは家庭にどれくらいあるのか。実験的にHPに重要な情報を流し、HPを見るという習慣づけをしていくのはどうだろうか。
- 業者から買った教材を配布するのはどうか。生徒の様子や状況に合わせた教材や試験を先生が作成するべきではないか。高校1年の成績から進路に影響するのだから、中学校の段階で勉強や課題への取り組み姿勢を確立しておく必要がある。
- 高校2年の取り組みで本を読むという習慣づけを行っているのは良い。予習は難しいものではなく、次の範囲を事前に読んでおくだけでも予習になる。

【SGHについて】

- 講師の予算など、SGH事業が終わった後のことが心配である。
- SGHの発表会について、内容は昨年のもよりも深まっているように感じた。英語はよくわからなかったが、相手に伝えようとする発表ができていた。1年生の発表については非常に感心したし、来年が楽しみである。
- 去年発表した生徒ではなく、毎年新しい生徒が発表しているのがすごいと思っている。全員でSGH講座を受けるとするのは非常に良かった。豊中高校ではポスターセッションの取組も行われていたので、これは見習うべきところである。SGHで発表したことを実践し、能勢の活性化をPRしてほしい。
- 発表会は感激した。能勢の生徒がめざすべき目標が明確に見えた。グローバルな課題を能勢にフィードバックしてくれたのが嬉しかった。
- SGHの生徒の取り組みを見て、地域の目や中学生からの進学も増えてくるのではないか。地域の人目に触れないのが少し残念。
- 豊中高校の発表で、プレゼンテーション能力は非常に高かったが、能勢高校には「思い」があり、地域と連携ができています。地域や町を挙げて取組んでほしい。

【学校経営計画について】

- 特に意見なく、経営計画や自己評価がこの協議会の目的であることを確認した。

【再編整備について】

- 能勢町では高等学校も込みで教育を考えてほしい。能勢町には、小・中を一校にしたエネルギーで、高校にも力を入れてほしい。能勢から出ていく生徒は、自分の決断で出て行っている。能勢以外から来ている生徒には優遇措置を考えてほしい。能勢町の出生数が40人を切っている状況で、この先どうするのか。
- 出生率も低下し、人口減少を危惧する。能勢高校に来る生徒への措置は、公平性の観点から懸念がある。交通の利便性は能勢町の課題ではあるが、なかなか措置を取ることは難しい。能勢高校に進学する能勢町の中学生が増えることが、まず大切である。それが能勢町の活性化につながる。
- SGHの生徒がどんどん外に出て行って活動してほしい。それが一番のPRや活性化になる。
- 町外の生徒が能勢高校に進学してくることで、刺激を受け能勢町の教育レベルも上がる。また、大人も町外の人たちが関わっているような活動をしてきている。こうした人への優遇措置が能勢の存続につながる。
- 池田から来ている生徒の保護者の方と卒業式で話す機会があった。その方は、「能高校に来てよかった。きめ細やかな対応もしてもらった。何よりSGHに参加したくさん発表しことが大きな力になった。感謝している。」と言っていた。町外から来た生徒の保護者の意見を大事にし、それをもっと広報などに使ってはどうだろうか。町外の保護者の意見は能勢中学校への保護者にも大きく響くのではないだろうか。
- 能勢高校のPRならいつでもするという人はたくさんいる。町外から来ている生徒は根性もあるし、そういった保護者の意見は貴重なものだ。